

【取組の概要】

地域資源を活用した地域の活性化

- ◆ 住民組織「台ヶ原ふるさとづくり協議会」の設立
- ◆ 祭り、文化の保存
- ◆ 景観、自然環境の形成
 - ・ 県、市等と連携し老朽化した農業用水路をホタル水路として再生

【体制】

台ヶ原ふるさとづくり協議会(平成 20 年設立)

- ◆ 地域住民等
台ヶ原ふるさとづくり協議会（台ヶ原区役員会、台ヶ原宿景観形成推進委員会、甲州台ヶ原宿虎頭の舞保存会、台ヶ原蔵楽部、台ヶ原宿商工観光の会、台ヶ原農事組合、よみがえる尾白川を考える会、梨北農業協同組合）
- ◆ 北杜市
- ◆ 山梨県（耕地課、中北農務事務所）



【取組内容】

■ 台ヶ原ふるさとづくり協議会によるホタル水路の整備に向けた検討の流れ

キックオフ打合せ



整備予定地現地調査



地域の描いた構想図



先進地視察(長野県辰野町)



地域の描いた完成予想図



完成したホタル水路



[1] 取組経緯

＜農業用水路からホタル水路への再生の道＞

- 平成20年 ・ 地域資源を活用した地域の活性化を目指して、地域住民等で組織する「台ヶ原ふるさとづくり協議会」を設立。
- 平成21年 ・ ホタル水路の整備に関する本格的な検討を開始し、山梨県と北杜市も参画し具体化に向けた協議を行う。
- 平成22年 ・ 事業化に向け整備手法や予算計画等を協議会と行政（県・市）で協議を進め、地域用水環境整備事業を県が事業主体となり住民と共同で取り組むこととなった。
- 平成23年 ・ ホタル水路等の測量及び詳細設計に着手。
- 平成24年 ・ 整備工事着手。
- 平成26年 ・ 整備工事完了。
・ 供用開始（地域ではカワニナの生息環境の整備に取り組む。）。

[2] 工夫した点

- ・ 事業の実施にあたっては、地域と行政が互いの整備に対する役割を明確にした。
- ・ 協議会と行政の合同で長野県辰野町の先進地視察を行い、専門家の意見を聴くなどしてお互いに整備に対する共通認識を深めた。
- ・ 協議会と行政が多くの意見交換の場を設けた。

[3] 取組効果

- ・ 官民協働で事業を進めたことにより、地域の意見がより多く取り入れられた事業となり、整備自体も円滑に行えた。
- ・ 地域主導型の整備を行ったことで、整備した施設を協議会が主体となって管理してくれている。

[4] 取組の今後の展開及び課題

- ・ 現在、維持管理を主体となって行っている協議会へ、20代から30代の若手住民の参加を促し、将来を見据えた組織体制の整備が必要となってくる。
- ・ ホタル水路にて、ホタル祭りを開催し、地域の活性化を図りたい。

[5] 事業費、財源とした補助事業等

- ・ 地域用水環境整備事業

（事業主体：山梨県、事業費：約1億円、財源構成：国50%、県25%、市15%、地域住民10%）